

第24回 全国街路事業 コンクール応募資料

平成24年3月

応募者名：下関市建設部道路課

事業の名称：都市計画道路松原長府駅前線
整備事業

実施都市名：下関市

事業目的

都市計画道路松原長府駅前線は、城下町長府地区の中心部に位置し、国道9号と国道2号を連絡する地区内の補助幹線道路として位置づけられている。本事業区間においては、道路幅員が狭小で歩道も未整備であるため、朝夕の交通混雑が著しく、交通安全上危険な状態となっていた。

そこで、地区内交通の円滑化と快適な街路空間の確保及び沿道の歴史的景観の創出を目的として整備を行った。

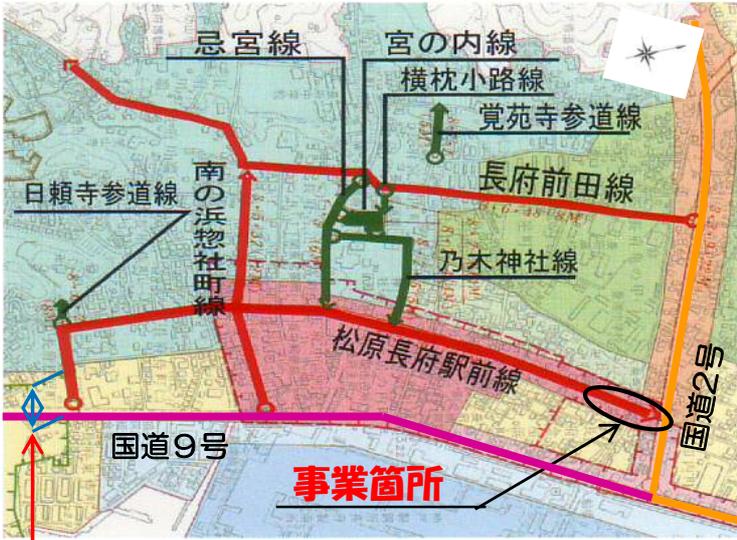
事業概要

事業名称：都市計画道路松原長府駅前線整備事業
路線名：都市計画道路松原長府駅前線
事業箇所：下関市長府金屋町～長府印内町
事業延長：180m
幅員：15m(2車線)
事業費：約22億円
事業実施期間：平成12年度～平成22年度

本事業は、城下町長府地区の中心部に位置する地区内の補助幹線道路を、交通混雑の解消や安全な歩行空間の確保及び快適な歩行空間の創出を図るために、道路拡幅及び電線類の地中化を行った。

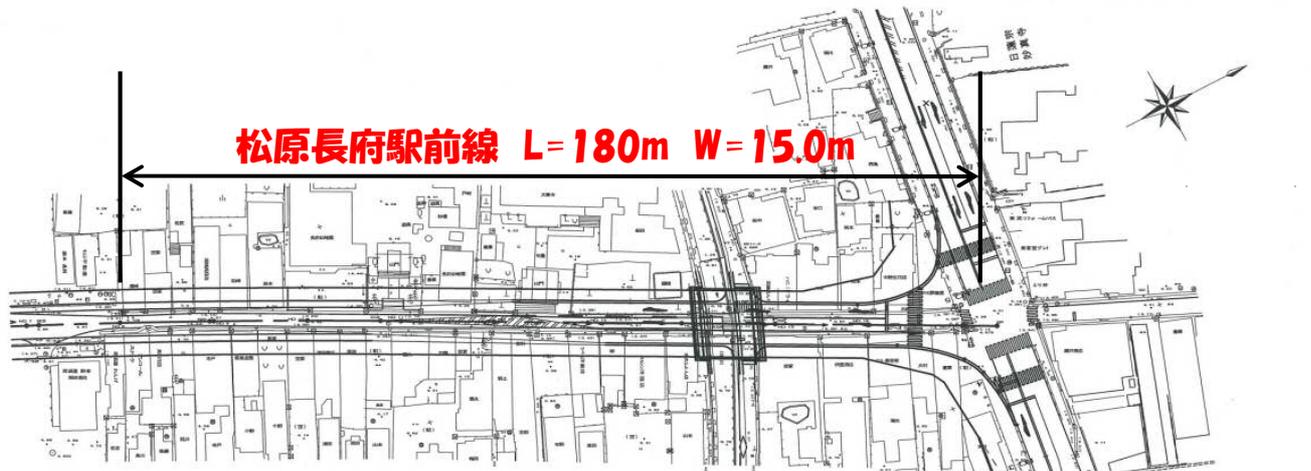
また、沿道の住民が進める「金屋のまちづくり協定」と街並助成事業と併せて、歴史的地区環境整備街路事業調査検討会において、景観に配慮した材料選定などを行い、歴史的景観に配慮した街路空間の創出を行った。

事業位置図

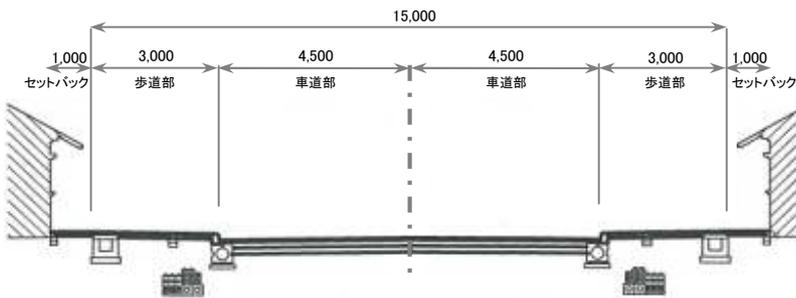


未整備区間 $L = 90m$

全体図(平面図・横断面図)



標準断面図



松原長府駅前線の整備効果アピール資料



店舗の造りは旧山陽道をイメージさせる平入り型商業建築を取り入れ、外壁や屋根は街づくり協定に沿った、旧街道沿いの町屋のイメージを生かした事例。

門修景

店舗前の駐車場に門を取り付けることによって、隣接の家屋と屋根が揃い、整った景観を演出している。



調和のとれた町並み

修景された家屋が並ぶことによって、昔の佇まいが感じられる町並みとなっている。



下関市街なみ整備助成事業

「整備効果」

- ◎ 城下町長府地区のまちづくりに対する地元住民の気運が高まる中で、「長府金屋地区街づくり協定運営委員会」が発足し、旧街道沿いの家屋の新築や改築等にあたり、町屋の伝統的な建築様式を用いるなど、自主的に街並環境の整備に取り組む姿勢が顕著にみられるようになった。
- ◎ 歩道を新設したことで、高齢者や通学児童及び長府商店街の買い物客などが安全で快適に歩道を利用することが可能となった。
- ◎ 整備前は幅員狭小で一方通行の交通規制がかかってたが、拡幅後相互通行が可能となったことで、城下町長府地区へのアクセスが容易となった。

事業前写真

事業前写真1

平成16年5月撮影



事業前写真2

平成16年5月撮影



事業前写真3

平成16年5月撮影



事業後写真

事業後写真1

平成23年 3月撮影



事業後写真2

平成23年3月撮影



事業後写真3

平成23年3月撮影

